

ADOBE® CREATIVE SUITE® 4
DESIGN PREMIUM

入稿対応印刷会社導入事例
from FUKUOKA, HOKKAIDO, KYOTO

ARE YOU READY?
WE ARE READY.



from FUKUOKA

斬新な取り組みで印刷産業の発展に積極的に取り組む

株式会社ゼンリンプリントテックス

北九州市に本社工場を構えるゼンリンプリントテックスは、九州でトップクラスの規模を誇る総合印刷業。親会社のゼンリンが発行するゼンリン住宅地図はもちろん、会社案内や各種会報、チラシやパンフレット、ポスターなど一般商業印刷も幅広く扱っている。その強みは、企画・デザインから印刷・製本まで一貫して行うことができること。さらにはWeb、モバイルなどクロスメディア事業にも積極的に展開し、より効果の高い広告展開や販促活動もサポートする。まさにオールインワンの総合力を持った印刷会社だ。

デザイナーと印刷会社双方にメリットがある

そうした同社もAdobe CS4の入稿対応を早期に決めた印刷会社のひとつ。早期対応を決めた理由を同社生産部の喜島充彦氏は「お客様のニーズにはすべて対応するというのが、弊社の基本スタンスだから」と答える。実際に、現在入稿可能なアプリケーションは幅広く、Illustratorなら5.5〜CS4まで対応できる。

しかし、『顧客ニーズへの対応』というフレーズをもっと掘り下げていくと、印刷会社ならではの思いがそこにある。

「最新アプリケーションの早期対応を実現する最大の理由は、デザイナーにもっと新しいアプリケーションを使ってもらいたい、と思うからです。なぜ、そんなふうにいるのかというと、それは新しいアプリケーションを利用することで、表現力の向上、そして業務の効率化といったメリットをデザイナー自身が確実に得られるから。印刷会社の使命はデザイナーの希望を形にすることですので、新しいアプリケーション

ョンを使ってもらいたいと思う以上、対応することは当然です」(喜島氏)。

一方で、印刷会社にとっても新バージョンに対応するメリットはあると喜島氏は指摘する。それは、これまでアプリケーションのバージョンアップは、デザイナーサイドに有利な機能強化がメインだったのに対し、最近のバージョンアップは出力サイドにとっても恩恵が得られるようになってきたからだ。わかりやすい事例が透明効果。この機能が搭載されたとき、出力の現場が多かれ少なかれ苦労したのは周知の事実。しかし、CS2以降では印刷に適したPDFが簡単に出力できるようになり、PDFワークフローに取り組みやすくなったことから、透明効果が原因となるトラブルが大幅に減った。当然出力サイドの負担も減ることにつながった。

さらに、新バージョンで出力サイドにもメリットがあることがわかってからは、オペレーターのモチベーションが向上するという副次的な効果も生み出した。新しいワークフローに取り組みればそれだけ生産性が向上し、自身の負担も減るということがオペレーターに浸透したことで、自然と各自がスキルアップを果たしているという。「自発的にスキルアップを果たした現場には、大きな信頼を置いています。今、プリプレスの現場はすごく良い状態です」(喜島氏)。

制作の現場でも上位バージョンに一本化したいと考えている

社内の制作環境においては、まだまだ最新の環境とは言えないのが同社の現状だ。移行の足かせになっているのが「膨大な過去のデータ資産の存在」だと同社生産部一般編集課課長の土居隆士氏は言う。

「正直なところ、はやくCS4へ移行したいという思いはあります。ただ、どうしても過去データを流用しなければならない場面では、なかなか進められないのが現状ですね。とはいえ、効率面や設備の刷新を考えると、できることから新しい環境への移行を積極的に進めていく必要があるでしょう」と土居氏は今後の展望を話す。とくに一般商業印刷の分野ではワークフローのさらなる最適化を実現するため早急に進める考えだ。

また、CS4に移行したい理由はもう一つあるという。それは昔を知らない若いスタッフへの配慮だ。「専門学校等でMac OS Xで動作するCS2やCS3しか学んでいない学生や派遣社員に、現場で普通に使っているMac OS9を見せても『なんですかこれ』という状態。ひとつの成果物を制作するときに、複数の手順があるということはメリットでもあるかもしれませんが、今は非効率であるというデメリットのほうが強く感じます。上位バージョンで一本化できれば、新しいスタッフもすぐに力を発揮できますし、効率化にもつながります」(土居氏)。

クロスメディア展開でCS4の機能に期待する

実際にCS4を使用してみて、その機能には十分手応えを感じているようだ。同社ではゼンリングループと共にメディアの壁を越えて、さまざまな取り組みを積極的に行っていることもあり、印刷の現場だけでなく、クロスメディア展開への有用性も見いだしている。

同社生産部の西水流薫氏はCS4の可能性をこう語る。「InDesignからSWFへの書き出し機能には将来性を感じました。最近では印刷物の制作と同時にWebサイトの制作を受注するケースが多くなっています。そうした場合でも、短期間でインタラクティブなWebサイトが制作できます。CS4によってWebサイト制作に必要なスキルがだいぶ下がるのではないかなと思いますね」。

新バージョンへの積極的な対応が多くのメリットを産み出しているゼンリンプリントテックス。顧客のニーズに対応することで、自社のスキルを向上させてしまうというエネルギーな会社だ。



新バージョンへの対応を積極的に行うことで、社員のモチベーションも向上。今、現場はすごく良い状態です。

——喜島充彦氏

ゼンリンプリントテックスのCS4のオススメ!

- ID SWF書き出し** 印刷物とWeb制作を同時に請けるケースが増えています。簡単にインタラクティブなWebサイトが構築できて便利です!
- ID ライブプリフライト** 自社プロフィールを顧客に配布して作業してもらえれば、出力トラブルは大幅に減るはず! これから必要不可欠の機能に!
- Ai ID Ps インターフェース** すごく使いやすくなったという印象! アビラランスバレットからほとんどにアクセスできてしまうのでは?

上位バージョンで統一できれば、昔を知らない新しいスタッフもすぐに力を発揮できます。

——土居隆士氏

CS4によってWebサイト制作に必要なスキルがだいぶ下がるのではないかなと思いますね。

——西水流薫氏



company information
株式会社ゼンリンプリントテックス
住所：北九州市門司区松原三丁目5番8号
URL：http://www.zpx.co.jp/

from HOKKAIDO

大正12年創業の老舗が、 新たなマーケットを切り開く

株式会社須田製版

須田製版は大正12年に創業した老舗印刷会社。札幌市に本社工場を構え、旭川、釧路などに工場を設置。また関東にも営業所を進出させるなど道内外でも営業展開している。創業当初は写真製版業専門だったが、グラフィック印刷を始めオフセット印刷機を順次導入。2000年には道内初となるA全判8色輪転機2台体制を整え、生産力は道内トップクラスに。現在では、多様化・細分化する顧客ニーズに対応し、従来の受注産業としての印刷業から脱皮し新しい事業領域にも積極的に取り組むなど、革新的な印刷会社として進化し続けている。印刷のデジタル化への取り組みも道内では早く、1993年のCPC（クリエイティブプランニングセンター）新設と同時にMacを導入。印刷の効率化を進めると同時に、ITを駆使したシステムやワークフローの構築、クロスメディア展開などにも果敢に取り組んでいる。

CS4の早期入稿対応は 顧客ニーズに応えるため

保守的な考え方の多い印刷業界において、須田製版はなぜ先に先駆けて新たな試みにチャレンジし続けているのだろうか。同社プリプレス部技術部長の大森均氏はこう語る。「やはりお客様が望むから。わかりやすい例で言えば、短納期、低コスト。今ではそれに加え、お客様のニーズは非常に多様化し、細分化されています。さまざまな努力をしてそのニーズに応えるのが弊社の使命だからです。」

新しいAdobe CS4の入稿対応も素早かった。リリース直後から入稿対応を謳った理由は2つあると大森氏は言う。「最大の理由は、繰り返しになりますがお客様のニーズがあるから。実際にリリース直後からお客様からの問い合わせがありました。やはりデザイナーは印刷での対応が一番気になるでしょうから、川下である弊社が対応しておくことは義務のひとつと考えます。もうひとつの理由は、「Adobe CS以降、出力が安定しているためまったく不安を感じていなかったから」（大森氏）。以前は新バージョンが登場しても、安定して出力でき



Illustrator CS4のマルチアートボードは便利です。クリエイターにとってはうれしい機能だと思います。
大坂貴氏

Adobe CS4リリース後、早速問い合わせがありました。川下である印刷会社が対応するのは義務のひとつです。——大森均氏

る目処が立つまである程度の猶予を置いていたそうだが、CS以降はどのバージョンでもリリースと同時に出力対応を謳っている。CS4リリース後1ヶ月というこのタイミングでの入稿実績はまだ無いが、テスト出力では問題ないという。

Trueflow SEでPDF入稿も完全対応

「もちろんPDF入稿なら、CS4で作成したものであってもまったく問題ありません」と大森氏は自信を見せる。須田製版では、Adobe PDF Print Engineを搭載した大日本スクリーン製造のワークフローRIP『Trueflow SE』を活用したPDFワークフローに積極的に、次世代PDFへの対応にも取り組み始めている。

「PDF/X-1aをサポートしたCS2以降、PDFワークフローへの敷居は劇的に低くなったと思います。PDFワークフローは、デザイナー、印刷会社双方にとってメリットがあります。たとえば添付画像忘れやデータ作成上の問題点など、不備があった場合は連絡しなければなりません。そうするとデザイナーにとっても手間になってしまいます。PDFならそうした手間を取らせません。ですから、お客様

がCS2以降をお使いであれば、PDFでの入稿をお勧めしています」（大森氏）。InDesign CS4ならば、ライブプリフライト機能を使ってよりミスが少ないPDFの書き出しが可能になる。PDF入稿の敷居はますます下がっていきだろうとの見方をしている。

制作部門でも新たな取り組みに積極的

須田製版では、制作部門でも新しい取り組みに積極的だ。たとえば『チラシ』の自動組版。JavaScriptで開発し、Illustratorで運用している。この自動組版システムは同社プリプレス部システム課課長の大坂氏が自ら組んだもの。InDesignならより高度な自動組版ができたのだが、協力関係にある制作会社がIllustratorでの運用が中心であったため、あえてIllustratorでの自動組版に挑戦。「当初、InDesignほど値組の自動化ができるかどうか不安に感じた部分もありました。しかし、実際にやってみたらかなりうまくいき、お客様からの信頼も得ています」と大坂氏は成果を語る。もちろん、InDesignでの自動組版も要望に応じて運用しているという。現状、須田製版の制作部門ではバージョンの統一の関係上CS3での作業となっている。一

方でCS4の新機能で魅力的に感じる部分も多々あるという。「Illustrator CS4のマルチアートボードは便利です。出力側は出力データの選択に注意しなければなりません、クリエイターにとってはうれしい機能だと思います。また、インターフェースもさらにこなれて使いやすくなったという印象はありますね」（大坂氏）。

このように須田製版が新たなワークフローを積極的に取り入れ、自動組版など制作部門での効率化を強力に推し進める理由は、つねに顧客ニーズの具現化を目指しているからなのは先に述べたとおり。ただ、忘れてはならないのが、そのニーズを掘り起こすために各担当者が顧客とのコミュニケーションを怠っていない点だ。設備や生産力を増強することはもちろん大切だが、「顧客とのコミュニケーションを深める中で、新たなニーズそして効果的なワークフローが発見でき、双方にメリットが生まれる」（大森氏）のだそうだ。北海道で印刷業界に携わる人で知らない人はいないといわれる須田製版。これからの取り組みにも注目していきたい印刷会社だ。

須田製版的CS4のオススメ!

- 1 **Ai** マルチアートボード デザインサイドではデータの作成がさらにやりやすくなるでしょう!でも出力側はどのデータを出力するのかチェックが欠かせません。
- 2 **Id** ライブプリフライト データ作成上のミスが減ることはデザイナーにとっても印刷会社にとってもプラスになります!PDF入稿推進のためにも良い機能です!
- 3 **Ai, Id, Ps** インターフェース 全体的にさらにこなれて使いやすくなった印象です!やりたい作業が少ないクリック数でできればそれだけ生産性の向上につながりますね。



company information
株式会社須田製版
住所：札幌市西区二十四軒二条六丁目
URL：http://www.suda.co.jp/

from
KYOTO

印刷通販という新たな マーケットを開拓し急成長!

株式会社グラフィック

日本の印刷業界に『通販』という概念を生み出したグラフィック。徹底的なコスト管理、工程管理により印刷価格を大幅に圧縮し、オフセット印刷をより身近なものにした立役者だ。しかも、カラーマネージメントを徹底させ、安くても安定した品質を実現。さらには印刷通販専用工場で作業を一貫して管理することで、最短24時間以内の発送も実現する。これまでの印刷の常識を次々に打ち砕いてきた革命児とも言える印刷会社だ。

これまでの常識を覆す 低価格を実現した印刷通販

グラフィックの前身は製版会社。デジタル化により縮小傾向にあった製版業務に変えて、新たな収益源として2001年から取り組み始めたのが印刷業務だった。ただ、製版会社として印刷会社から仕事を請けている以上、同じ地域で印刷の大々的な営業活動はできない。悩んだ末に出した答えが、インターネットを利用した印刷の『通販』だ。これなら商圏を同社がある京都に限定せず、極小ロットに特化して全国展開を行えると考えた。

そこで同社は、印刷会社として初めて楽天市場に出店。当時A4サイズ500枚のフルカラーオフセット印刷で8000円というサービスを開始した。なぜ楽天だったのか、そして当時としてはケタ外れの低価格をなぜ実現できたのか、印刷部印刷通販課係長の竹村石二氏は当時をこう振り返る。

「当時の弊社にはECの技術がまったくありませんでした。まだ売れるかどうか分からない状態で大きな投資はできなかったため、まずはショッピングカート機能のある楽天で始めよう。というより、知識が無くても安心して使えるサイトは楽天市場しかなかったというのが本音ですね。おそらく印刷業としては初の出店だったかと思います。価格については、通販でやるからには一般の消費者が購入しやすい価格で、なおかつぎりぎり利益が出る価格を設定しました。通販であるがために可能なあらゆるコストカット、作業の効率化を実践したことで実現できた価格でした」。

絶対的な高品質と サポート力が躍進の決め手

とはいえ、出店当初は、安すぎて不安だ、本当にオフセット印刷なのか、といった価格と品質を疑問視する問い合わせが相次いだそうだ。しかし、同社の前身は印刷会社の下請けとなる製版業。品質、コスト、納期などあらゆる面で厳しい環境下での作業をこなしていくうちに自然と技術力が付いた。同社工場長の橋井浩氏は「印刷も社内で行うことで、製版で培った色再現の技術やデータをミス無く出力する技術がより活かされるようになった。品質には絶対の自信がある」と強調する。徹底したプロフィール管理を行うことで、印刷機の個体差によるバラつきを軽減して標準印刷を実現した。

こうして、品質の高さと価格の安さが顧客に支持され、その評判が口コミ的に広がり今では印刷通販のトップ企業として成長。現在は自社サイトで多彩なサービスを展開している。同社の強みを印刷部印刷通販課課長代理の田中幸則氏に伺った。

「基本的には高品質、24時間対応、納期厳守というところですが、強力なサポート力も弊社の

の強みだと思います。それがお客様にとって安心感につながっているのではないのでしょうか。サポートは電話、Webサイトともに充実させています。WebサイトにはDTPに関する疑問を解決できる『DTPテクニカルガイド』を多数用意し、ダウンロードできるようになっています。もちろん、データの作り方も必要に応じてご説明しています。弊社を利用するお客様には一般のお客様も非常に多いので、やはりサポートの強化は特に重要視しています。CS4サポートももちろん始めています」。

ライブプリフライトの プロフィールを配布開始

データ作成に関するマニュアルも早速CS4対応版をリリース。InDesign CS4のライブプリフライト、Illustrator CS4の分版プレビューなど、安全に出力するための新機能についても活用方法を掲載している。

「InDesign CS4のライブプリフライトに関しては、弊社推奨の設定をプロフィールにしてWebサイトで配布するサービスを始めました。うまく活用していただき、データ作成時のミスの低減に是非お役立ていただきたいですね」と田中氏。

もちろん、CS4のデータ入稿に関してもすでに済みで、すでに数十件程度の入稿実績があるという。現状CS4の入稿に関して「現段階ではまったく問題ない」と竹村氏は胸を張る。出力周りに関しては前バージョンからあまり変更がなかったこと、事前のシミュレーションでも問題はなく、また導入RIPのメーカーである大日本スクリーン製造からも問題ないという返答があったことから、早期のCS4の入稿対応に関して不安はなかったそうだ。

また同社では、PDF/X-1aで入稿するとポイント還元による割引制度を行うなど、PDF入稿に対して積極的だ。これはPDF入稿からの印刷が、より安定して行えるという証でもあるだろう。CS2以降、PDF/X-1aの書き出しは非常に簡単になったため、利用者は徐々に増えているという。

印刷を『通販』という形で新たなマーケットを切り開いてきたグラフィック。急成長の裏には徹底した品質管理と、強力なサポート力があった。また、最新の印刷機、最新の色管理システム、最新のワークフローRIPの導入など設備投資にも積極的で、より高品質な印刷物をさらに効率よく印刷できる環境をつねに追い求めている。この快進撃はまだまた続きそうだ。



— 田中幸則氏 —
弊社推奨の設定をプロフィールにして
Webサイトで配布するサービスを行っています。

グラフィック的 CS4のオススメ!

- 1 ID **ライブプリフライト** グラフィック推奨のプロファイルを配布開始しました。これを使用して作成したInDesignデータなら出力トラブルが激減するはず!
- 2 Ai **分版プレビュー** Illustratorで良くあるトラブルとして、モノクロ印刷物の制作時のカラー設定ミスが、分版プレビューにより一目瞭然。是非活用してほしいです!
- 3 Ai **マルチアートボード** Illustratorでも簡単なページ物ができるのが良いですね。PDFに書き出すときも便利で、かなり使える機能でしょう!

CS4の出力に関しては
現状まったく問題ありません。
— 竹村石二氏

徹底した
標準品質管理で、
印刷品質のバラつきを
抑えます。
— 橋井浩氏



company information
株式会社グラフィック
住所：京都市伏見区下鳥羽東芹川町33
URL：http://www.graphic.jp

全国のAdobe CS4出力対応店／印刷会社を公開中

www.adobe.com/jp/p/



CS4の出力テストファイルと掲載申込書 (zip : 24.7MB)

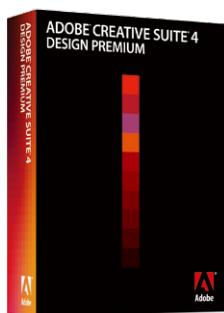
CS3、CS2の出力テストファイルと掲載申込書 (zip : 23.6MB)

出力対応店／印刷会社を募集

Adobe CS4に対応している出力店／印刷会社様は、左記Webページに社名を掲載することができます。簡単な手続きで登録は無料。ビジネスチャンスを広げる絶好の機会となりますので、是非アクセスしていただき、ご登録ください。

ARE YOU READY? WE ARE READY.
Adobe CS4 入稿対応印刷会社導入事例

ADOBE® CREATIVE SUITE® 4 DESIGN EDITION 製品ラインナップ

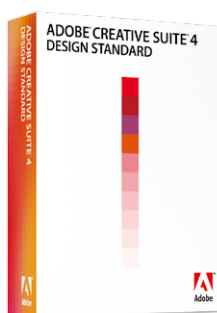


ADOBE® CREATIVE SUITE® 4 DESIGN PREMIUM

プリント・Web・モバイルコンテンツ制作のための革新的なトータルデザイン環境

- Adobe® InDesign® CS4
- Adobe® Photoshop® CS4 Extended
- Adobe® Illustrator® CS4
- Adobe® Flash® CS4 Professional
- Adobe® Dreamweaver® CS4
- Adobe® Fireworks™ CS4
- Adobe® Acrobat® 9 Pro
- + Adobe® Bridge CS4
- Adobe® Device Central CS4
- Adobe® Version Cue® CS4

Windows®/Mac OS



ADOBE® CREATIVE SUITE® 4 DESIGN STANDARD

信頼性の高いグラフィックデザインと印刷ワークフローのための基本ツールセット

- Adobe® InDesign® CS4
- Adobe® Photoshop® CS4
- Adobe® Illustrator® CS4
- Adobe® Acrobat® 9 Pro
- + Adobe® Bridge CS4
- Adobe® Device Central CS4
- Adobe® Version Cue® CS4

※Design Standardに含まれるPhotoshop CS4は、Extendedではなく通常のPhotoshop CS4となります。

Windows®/Mac OS

※最新の必要システム構成については <http://www.adobe.com/jp/products/creativesuite/design/systemreqs/> および <http://www.adobe.com/jp/products/creativesuite/designstandard/systemreqs/> をご覧ください。必要システム構成は予告なく変更となる場合がございます。ご購入前に必ずご確認ください。

お求めは www.adobe.com/jp/store/

アドビストア (注文専用) Tel. フリーダイヤル 0120-61-3884 電話受付時間 9:30~17:30 (土、日、祝日および弊社指定休日を除く)
カスタマーサポートポータル (ご注文以外のお問い合わせ) www.adobe.com/jp/support/portal/

アドビ システムズ 株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.com/jp/

この冊子に記載の情報は、2009年2月現在の情報です。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, Adobe PDF, Adobeロゴ, Acrobat, Adobe Bridge, Adobe Device Central, Adobe Illustrator, Dreamweaver, Fireworks, Flash, InDesign, PhotoshopおよびVersion Cueは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における登録商標です。Mac OSおよびQuickTimeは、米国および他の国々におけるApple Inc. の商標です。IntelおよびPentiumは、アメリカ合衆国および他の国々におけるIntelコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。PowerPCは、International Business Machines Corporationの米国ならびに他の国々における登録商標です。Microsoft, Windows, Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国ならびに他の国々における登録商標または商標です。その他のすべての商標は、それぞれの権利所有者の所有物です。

©2009 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. ASJST798 2/09

